行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106 東京都港区南麻布4−6−7
統計数理研究所　村上研究室

調査はむづかしい

林　文

ささやかながら社会調査に携わってきて，また，大学生や社会人大学院生たちへの講義を担当して，いろいろと考えることがある．

確かに調査はおもしろい．どんなでたらめな調査でも数字として何かが出てくる．少なくとも自分が思っていたよりも多いとか少ないとか思ったとおりだったという全く素朴な疑問に回答を与えるようにみえる．また，簡単に多変量分析ソフトを動かすことができて，何ら意味のありそうなことが出てきてしまう．調査は易しいものと思われる所以で，このことはずいぶん前から言われ続けてきたのだと思う．しかし調査はそんな易しいものではないのだからやるべきでないということはできない．調査には素人の様々な分野の研究者に対して，どのように援助をしていったらよいのかということが私たちの重要な課題だと思う．

さて，そうしたいろいろな分野でもランダムサンプリングの話はそれはそれとして理解されているが，実際には不可能なことも多い．社会の現実の姿を数として掴むためにはランダムサンプルによる社会調査でなければならないことは勿論である．しかし，実証研究が重要視されて多くの調査が行われているのに，その多くは非常に限られた集団やいわばデタラメな対象を扱っている．そしてその発表に際しては，ランダムサンプルでないがといった但し書きをつけるくらいがせめてもの良心的な対応として一般化が行われてしまう．

これに対して，ランダムでなければ意味がないと言ってしまうことはできるが，場合によってはそういっては調査が不可能なこともあり，一概に排除できないと思っている．そこから統計的に意味のある結果として述べることはできないが，研究は一人の一つの研究で完結するものではないと考えるべきではないだろうか．

次の研究において，また次の研究者が少しずつ進めていく．そのために必要なことは，どのようなサンプルであったかをきちんと把握し，その記述をしっかりすることである．例えば日本人とはどうどうということに対して，サンプルをデタラメに散らばせていかにもすべての年齢を把握したような気になるよりは，ある特徴のつかめた集団に対して調査を行った方がよいかもしれない．そうすれば，研究の積み重ねが意味を持つ．

実はそのことは，サンプルの話ばかりではない．調査の質問に対しても同様なのである．何かの概念について調べようとするとき，研究者が作成する質問はたくさんの概念構成の中の一つであり，その中での話にすぎない．質問票の構成について考えてみると，素朴にこんなことを調べてみたいという程度の質問と，そうでなければ，これまでにどこかで行われた調査の中から抜いてきた質問で構成されることが実に多い．質問票作成には，まさに研究者の広く深い知識と洞察が必要なのである．

以上当たり前のようなことだが，自分への反省も含めて雑然と考えていることを書かせていただいた．

（はやし　ふみ：日本行動計量学会編集委員，東洋英和女学院大学）

目　次

1．巻頭言「調査はむづかしい」　1

2．第２５回日本行動計量学会大会
　2．1．大会の日程　2
　2．2．大会の内容　2
　2．3．ホームページ開設　2

3．行動計量シンポジウム
　3．1．第６２回シンポジウム　3
　3．2．第６３回シンポジウム　3

4．Q&A　3

5．選挙結果報告　4

6．学会カレンダー
　6．1．人工知能研究会　4
　6．2．電子情報通信学会　5
　6．3．数理社会学会大会　5
　6．4．第５回ＩＲＴセミナー　5
　6．5．日本発達心理学会　5
　6．6．日本分類学会研究報告会　5
　6．7．日本計量生物学会・
　　応用統計学会合同年次大会　5

7．公募案内
　7．1．北海道大学文学部　5
　7．2．島根大学総合理工学部　6
　7．3．東京工業大学　6

8．事務局より　6
　8．1．事務局としての三年間　6
　8．2．訂正　6
　8．3．会報担当者よりご挨拶　6

2．第25回日本行動計量学会大会

2.1　大会の日程

日　時：平成９年９月５日(金)～７日(日)

場　所：仙台市戦災復興記念館
〒980 仙台市青葉区大町 2-12-1
TEL：022-263-6931
（ＪＲ仙台駅よりタクシーで5分，
徒歩20分程度）

2.2　大会の内容

本大会では，シンポジウム，特別セッションおよび一般研究発表を予定しています．シンポジウムでは次のような企画を立案中です．

＜シンポジウム１＞

仮題「東京の失敗を繰返すな－地方中枢都市への課題－」（一般無料公開）

ねらい：都市は人口集中による経済効率や文化的活動の優位性から成立するが，人々の自由な動きに対しては多くの難しい問題を抱える．そこで，人と人，人と自然との交わりにやさしい，活気とやすらぎの都市像についてその可能性を問う．

＜シンポジウム２＞

仮題「現代日本の社会構造を探る－社会学と行動計量学との対話－」

ねらい：１９５５年以来，１０年ごとに実施されてきたＳＳＭ調査（社会階層と社会移動全国調査 The National Survey of Social Stratification and Social Mobility）に関する最新の分析結果を報告しつつ，社会学と行動計量学の関係と今後の展開について考える．

2.3　第25回大会関連のホームページ開設

第25回大会関連のホームページを開設します．ここには，大会関連の情報ばかりでなく，シンポジウムの内容に関して一般の方々からのご意見，ご異論等をお聞きするコーナーを設ける予定にしております．ホームページの内容は逐次改訂いたしますので，会員の皆様には，時折開いていただければと思います．アドレスは下記の通りです．

http://www.sal.tohoku.ac.jp/bsj97/

なお，第25回大会に関するお問い合せは，下記までお願いいたします．

〒980-77　仙台市青葉区川内無番地
東北大学国際文化研究科等事務部気付
農学部地域計画論研究室
木谷 忍（第25回大会事務局長）
TEL：022-217-7781
FAX：022-263-9277
e-mail：skitani@mail.cc.tohoku.ac.jp

3．行動計量シンポジウム

以下の二つの行動計量シンポジウムが企画されています．いずれも詳細は別紙を参照してください．

3.1　第62回行動計量シンポジウム

（日本認知科学会との合同開催）

「心理・数理・生理的アプローチの競合と協調」

日時：1997年3月18日（火）10:00～17:00

場所：東京大学教養学部12号館1225教室

主催：日本行動計量学会，日本認知科学会

企画：繁桝算男（日本行動計量学会）
市川伸一（日本認知科学会）

照会先：

☆　日本行動計量学会
繁桝算男（東京大学教養学部
心理学教室）
TEL：03-5454-6267
FAX：03-3485-0481
e-mail：kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp
〒153　目黒区駒場 3-8-1

☆　日本認知科学会
市川伸一（東京大学教育学部
教育心理学研究室）
TEL & FAX：03-5802-8651（直通）
e-mail：
ichikawa@educhan.p.u-tokyo.ac.jp
〒113　東京都文京区本郷 7-3-1

3.2　第63回行動計量シンポジウム

「生と死の行動計量（5）」

日時：1997年3月22日（土）13:00～17:00

場所：統計数理研究所 講堂

企画：丸山久美子（聖学院大学）

主催：日本行動計量学会

照会先：田栗正章（千葉大学理学部）
〒263　千葉市稲毛区弥生町 1-33
TEL：043-290-2725
FAX：043-290-2733
e-mail：taguri@math.s.chiba-u.ac.jp

4．Q&A

Q：一元配置分散分析で有意になったら多重比較を行うという方針で解析しています．しかし，分散分析は不要であるとの話を聞きました．どのように考えればよいのでしょうか？

A（岡山大・経済　永田　靖）：
一言で答えると，「用いる多重比較法の手順の中に含まれている場合のみ一元配置分散分析を行う」となります．それ以外の場合には，分散分析は不要なのではなく，行ってはいけないということが原則です．

例えば，シェフェ法の手順の中には一元配置分散分析も含まれていますので，分散分析を行ってから興味ある対比の検定を行うことになります（実際，この場合に分散分析で有意でないなら，どの対比の検定も有意になりませんから，前もって分散分析を行うほうが効率的です）．

一方，テューキー法やダネット法を用いる場合には，その手順の中に一元配置分散

分析が含まれていませんから，前もって分散分析を行ってはいけません．この場合，何がまずいのかを２つの場合に分けて述べましょう．

①分散分析で有意であっても有意でなくても多重比較を行う場合：このときは，分散分析と多重比較という２種類の検定を行うことになりますから，新たな検定の多重性の問題が生じます．

②分散分析で有意になったときのみ多重比較を行う場合（これが質問の主旨にそった場合です）：テューキー法やダネット法を用いる場合には，たとえ分散分析で有意にならなくてもこれらの多重比較法により有意となる対比較が存在します．したがって，本来の目的である多重比較の検出力が若干低くなってしまいます．つまり，第１種の過誤の確率が小さくなり，そのぶん検出力が下がるということです．それゆえ，第１種の過誤の確率を抑制する立場からは，質問にある方針が“誤り”とまでは断定できません．しかし，損なやり方なので，“原則として行ってはいけない”と述べました．

質問にあるような方針は，フィッシャーのLSD法（制約付LSD 法）がよく用いられていたころの名残りだと思います．しかし，フィッシャーのLSD 法は，４群以上の場合には多重比較法として妥当ではありません（第１種の過誤の確率が大きくなります）．

５．選挙結果報告

先日実施された日本行動計量学会役員選挙の投票結果を以下のように報告します．

選挙管理委員会：
杉山　明子，高木　廣文，中村　隆

理事選挙有効投票数　600

監事選挙有効投票数　213

当選者（五十音順）

１．理事
飽戸　弘，池田　央，市川伸一，
市川雅教，岩崎　学，岩坪秀一，
江川　清，大隅　昇，岡太彬訓，
狩野　裕，木下冨雄，駒澤　勉，
繁桝算男，杉山明子，高木廣文，
田栗正章，林知己夫，林　　文，
前川真一，宮埜壽夫，村上　隆，
村上征勝，柳井晴夫，吉野諒三，
吉村　功　　以上25名

２．監事
丘本　正，宮原守男　　以上２名

６．学会カレンダー

6.1　人工知能学会ホットトピックスと並列人工知能研究会（HOT/PPAI研究会）1997年度第3回研究会

特集テーマ「artificial creativity」

日　時：1997年3月14日（金）
10:00 - 17:00

場　所：ジャストシステム（東京・青山）
〒107　東京都港区北青山1丁目2-3　青山ビル
株式会社ジャストシステム7階
カンファレンスルーム
TEL：ジャストシステム基礎研
03-5412-3990（呼出）

会　費：（HOT/PPAI研究会員以外）
2,000円（含資料集代）

照会先：HOT/PPAI担当幹事 松原 仁
〒305 つくば市梅園1-1-4
電子技術総合研究所
TEL：0298-58-5917
FAX：0298-58-5918
e-mail：matsubar@etl.go.jp

6.2　電子情報通信学会「言語理解とコミュニケーション」研究会(NLC)

日　時：1997年3月18日（火）

場　所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

照会先：NLC幹事 堂坂 浩二
NTT 基礎研究所 情報科学研究部
TEL：0462-40-3617
FAX：0462-40-4705
e-mail：dohsaka@atom.brl.ntt.jp

6.3　第23回数理社会学会大会

会　期：1997年3月18日（火），19日(水)

場　所：東京大学

照会先：大会事務局
盛山和夫（東京大学文学部）
〒113　東京都文京区本郷7-3-1
TEL：03-3812-2111 ex. 3878
FAX：03-3815-6672

6.4　第5回ＩＲＴセミナー

日　時：1997年3月22日（土）
10:00～17:00

場　所：東京大学教養学部2号館3階
308号室（大会議室）

照会先：繁桝算男（東京大学教養学部
心理学教室）
TEL：03-5454-6267
FAX：03-3485-0481
e-mail：kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp
〒153目黒区駒場3-8-1
東京大学教養学部心理学教室

6.5　日本発達心理学会第8回大会

会　期：1997年3月27日（木）～29日(土)

場　所：大阪大学コンベンションセンター
（人間科学部キャンパス内）

照会先：学会事務センター発達心理学会
大会担当
TEL：03-5814-5800
FAX：03-5814-5823

6.6　日本分類学会第13回研究報告会

会　期：1997年3月27日（木）

場　所：統計数理研究所 研修室

照会先：日本分類学会事務局
〒106　東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所気付
TEL：03-5421-8741
FAX 03-5421-8796
e-mail：ohsumi@ims.ac.jp

6.7　1997年度日本計量生物学会・応用統計学会合同年次大会

日　時：1997年4月24日（木），25日(金)

会　場：東京大学大学院農学生命科学研究科（東京大学農学部）1号館講堂（第8講義室）

参加費：正会員 3,000円，学生 1,000円，非会員 3,500円

特別講演：
・光森達博（鐘紡（株）統計解析課）「応用統計におけるインターネットの利用」（仮題）
・柴田義貞（放射線影響研究所）「閑却されたフィッシャーの遺言ー有意性検定・推測確率・多重比較ー」（仮題）

特別セッション：
・テーマ「薬理試験データの計画と解析」（仮題）
・オーガナイザー　魚井　徹(山之内製薬)

7．公募案内

7.1　北海道大学文学部

1．職名および人員：助教授1名

2．所属講座：行動システム科学講座

3．専門分野 社会心理学ないし数理行動学

4．公募期限：平成9年5月10日(消印有効)

5．採用予定年月日：平成9年10月1日
（事情により変更可能）

6．問合せ先：
北海道大学文学部行動システム科学講座 篠塚寛美
TEL：011-706-4197
e-mail：shino@hubs.hokudai.ac.jp
WWW：http://lynx.hubs.hokudai.ac.jp/

7.2　島根大学総合理工学部数理・情報システム学科

1．職名および人数：
教授，助教授 または 講師 1名

2．専門（所属講座）：
数理統計学 または 確率論
（数理解析講座）

3．採用予定時期：
平成9年10月1日～平成10年4月1日

4．応募締切：
平成9年4月30日（水）必着

5．照会先：島根大学総合理工学部数理・情報システム学科
三輪拓夫
TEL：0852-32-6372,
e-mail：miwa@riko.shimane-u.ac.jp

7.3　東京工業大学大学院社会理工学研究科

1．職名および人数：助手 1名

2．専門（所属講座）：社会数理講座

3．採用予定時期：
平成9年度の出来るだけ早い時期

4．応募締切：
平成9年3月20日（木）必着

5．照会先：〒152　東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学大学院社会理工学研究科
価値システム専攻気付
社会数理講座助手専攻委員長
遠藤　薫
http://www.valdes.titech.ac.jp/

8．事務局より

8.1　事務局としての三年間

統計数理研究所　　村上 征勝

事務局としての三年間を振り返ってみますと，反省すべき点があまりにも多く，特に学会の財政危機を回避するためとはいえ，学会費の値上げに踏みきらざるを得なかった点，会員の皆様には誠に申し訳なく思っております．

学会の財政状況は会員の皆様の御協力や理事会，各種委員会の御努力で，次第に健全なものになりつつあります．次期事務局にも，より一層の御協力をお願い致します．

8.2　訂正

日本行動計量学会会報第71号の吉野諒三先生の巻頭言中の岸野先生の WWW アドレスに誤りがありました．正しくは

http://www.komaba.ecc.u-tokyo.ac.jp/~kishino/

です．お詫びして訂正します．

8.3　会報担当者よりご挨拶

成蹊大・工　　岩崎　学
統計数理研究所　前田忠彦

この3年間，会報の作成を担当して参りましたが，本号で交代します．会員の皆様へのサービスとして会報の充実を目指してきましたが，いかがでしたでしょうか．必ずしも満足のいくものにはなりませんでしたが，精一杯務めさせていただきました．次号からは新しい担当の方の編集になります．